

中・長期目標 (学校ビジョン)	生徒一人ひとりに寄り添い、自分の夢を叶えるため、変化の大きな時代を生き抜くために自律学習を行い努力し続けられる学習者をチームで育て、自分に自信を持つ人であふれる鳥取をつくっていく。
--------------------	--

今年度の重点目標	1 生徒一人ひとりに寄り添った面談・学習アドバイスをを行い、自律的な学習者を育てる
	2 生徒の現状に適した充実した授業・サテライン・AI学習を行う。
	3 保護者と情報共有を行い、信頼関係を築く。
	4 教職員間での情報共有に努める。
	5 成績の向上、進学実績の向上を図り、より多くの生徒が集まる学校をつくる
	6 地域への情報発信を積極的に行う。

評価項目	現状認識	具体的目標	具体的な取り組み	評価基準	評価結果 5月	
					経過・達成状況	評価
1 生徒と面談 学習アドバイス	○生徒と学習面における長期目標・ビジョンの共有が不十分である。 ○学習計画の実践が不十分である。	○定期的な面談を実施し、長期的な目標・ビジョンを共有する。 ○教科ごとの学習計画を考え、実施、評価を行う。 ○授業以外でも積極的に声掛けを実践する。	①担任アンケート結果に基づく査定を行う。 ②前期・後期の教科カウンセリングの実施 ③授業以外でも積極的に声掛けを実践する。	①担任アンケート結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 ②前期・後期の教科カウンセリングの実施 ③授業以外でも積極的に声掛けを実践する。 A: ①～③すべて達成 B: ①～③のうち2つ達成 C: ①～③のうち1つ達成	①68%で達成できなかった ②実施できた ③実践できた	B
2 授業 サテライン AI	○生徒の習熟度に合わせたクラス授業の設置が難しい。そのため、満足度が低い。サテラインやAIをもっと有効に活用し生徒に適した学習役立てる必要がある。	○クラス授業では入試で問われる力を生徒に伝える。 ○サテラインやAIで生徒に適した学習を行っていくためのサポートをする。	①授業アンケート結果に基づき査定を行う。 ②サテラインの進捗状況を把握し、アドバイスをを行う。 ③AIを活用し生徒に合わせた学習のサポートを行う。	①授業アンケート結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の60%以上 ②サテラインの進捗状況を把握し、アドバイスをを行う。 ③AIを活用し生徒に合わせた学習のサポートを行う。 A: ①～③すべて達成 B: ①～③のうち2つ達成 C: ①～③のうち1つ達成	①45%で達成できなかった ②進捗状況の把握が出来ていなかった。 ③サポートができた	C
3 保護者との 情報共有	○保護者への日々の連絡が不十分である。	○三者懇談時に保護者アンケートを実施し、保護者の言葉・要望に傾聴し、それを踏まえた面談の工夫や改善を行う ○欠席率が高い生徒・保護者への連絡を密にする	①アンケート結果にもとづく査定の実施 ②欠席率が高い生徒（連続3日欠席・同じ講座を連続2回欠席）・保護者への連絡を直ちに行う。	①保護者アンケートの評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 ②欠席率の高い生徒への連絡を実施 A: ①②すべて達成 B: ①②のうち1つ達成	①92%で達成できた ②こまめな連絡が出来なかった	B
4 教職員の 情報共有	○教職員の情報共有が不十分である。	○学習に関わる話し合いを実施し、新しい授業の実践を行う。	①学習に関わる話し合いを実施 ②AIやサテラインの指導方法の共有 ③生徒のニーズに合わせた授業の実施	①学習に関わる話し合いの実施 ②AIやサテラインの指導方法の共有 ③生徒のニーズに合わせた授業の実施 A: ①②③すべて達成 B: ①②③のうち2つ達成 C: ①②③のいずれか1つ達成	①実施できた。 ②不十分であった。 ③実施できた。	B
		○生徒の情報交換の場を設ける。	①生徒会議を実施する。 ②特別に情報共有すべき生徒については、こまめに全体への情報共有を実施する。 ③生徒に向けて次のアクションを起し、報告を密に行う。	①生徒会議を実施する。 ②特別に情報共有すべき生徒については、こまめに全体への情報共有を実施する。 ③生徒に向けて次のアクションを起し、報告を密に行う。 A: ①～③すべて達成 B: ①の達成かつ②・③いずれかの達成 C: ①のみの達成	①実施できた。 ②こまめな情報共有が出来た。 ③実施できた。	A
		○運営に関わる会議を充実させ、情報共有と意見が出しやすい環境作りを実践する。	①職員会議を実施する。 ②資料などの準備を2日前までに目を通してもらい、会議前までに目を通してもらい、意見を言しやすい環境を作る。	①職員会議を実施する。 ②資料などの準備を2日前までに目を通してもらい、会議前までに目を通してもらい、意見を言しやすい環境を作る。 A: ①～③すべて達成 B: ①の達成かつ②・③いずれかの達成 C: ①のみの達成	①実施できた。 ②準備が出来なかった。 ③様々な意見交換ができた。	B

5 進路の実現と 生徒数獲得	○合格者は出ているが、 難関大学合格や高校・中 学へのトップレベルの合 格が少ない。	○高卒生のニーズに合わせた、 合格に向けた授業の実践・合格 のための科目ごとの学習計画 の作成・長期的な目標・ビジョ ンを共有し、教科ごとの学習計 画を考え、実施、評価を行う。	○高卒生の国公立大学進学率60% 以上かつ難関大学・医歯薬合格 率20%以上	○高卒生の国公立大学進学率70% 以上かつ難関大学・ 医歯薬進学率20%以上	国公立大進学率69%で 難関大・医歯薬進学率 33%であった。	B
	○校外向けにあすなろの 魅力の発信が不十分であ る。	適切な時期に効果的な広報活 動を行う。	①短期講座の案内 ②魅力の伝わる生徒募集の実 施 ③HPやSNSを活用し、発信	①短期講座の案内を3～4週間 前を目安に情報を公開する。 ②生徒募集ではあすなろの魅 力がわかりやすく、興味深い ものにする。③HPやSNSを 活用し、あすなろの取組みを 発信する。 A：①～③すべて達成 B：①～③のうち2つ達成 C：①～③のうち1つ達成	①実施できた。 ②魅力が伝えきれてい なかった。 ③HPで発信した。	B
	○生徒数が定員を満たし ていない。	○今後も生徒に寄り添った指 導を行い、自然に生徒から選 ばれる、口コミで良さが広が っていき学校をつくっていく。	生徒数を伸ばす	A：全生徒数が100名以上 B：全生徒数が60名以上 C：全生徒数が30名以上	生徒数23名	該当なし
6 地域への 情報発信	○鳥取県の学力の現状や 受験の仕組みの変更が、 一般には知られていない。 ○R2年はオンライン質問 教室を実施したが、本年度 もこのような社会貢献活動 を実施していく必要がある。	○地元予備校として、受験に 関する情報を地域に発信する 機会をできるだけ設ける。	○生徒・保護者対象の進学セ ミナーを実施・セミナーアン ケートの実施・要項の作成。	①アンケート結果の評価項目 「とても満足している」以上 が全体の80%以上②要項の 作成とスムーズな実施 A：①②すべて達成 B：①②のうち1つ達成	①68%で達成できなかった ②実施できた	B
		○社会貢献活動を実施。新聞 などに取り上げてもらう。	○あすなろ主催での社会貢献 活動の実施。 ○新聞などに取り上げてもら う。	①あすなろ主催での社会貢献 活動の実施。②新聞などに 取り上げてもらう。 A：①②すべて達成 B：①②のうち1つ達成	①実施できなかった。 ②実施できなかった。	該当なし